2月下旬発売予定

貴店番線印

ご担当

冊

図書室の記録

花鞠学園・教室の事件簿

岸波 龍

ISBN978-4-88059-452-1 C0093 予価¥1600 四六判並製

而立書房

而立書房　　2月新刊のご案内（委託受注〆切 2026/1/25）

文芸書 ご担当者様

図書室の記録

花鞠学園・教室の事件簿

岸波 龍 著

四六判並製160頁　本体予価¥1600＋税　ISBN978-4-88059-452-1　C0093

学校図書室を巡る
消えかかる淡雪のようなミステリを――
推薦・竹本健治（ミステリ小説家）

花鞠学園２年３組の越後智也は図書室のヌシと呼ばれるほどに本が好き。同じく本好きな佐野雅は気さくで明るく、読了した本の感想を誰もが興味をそそるように伝えることができる書評の名人。２人は図書委員として放課後、図書の貸出しや棚の整理、おすすめ本を紹介する新聞づくりに取り組むが、本を読んでものおもいにふけっているばかりではいられない。図書の紛失や、文化祭のオバケ屋敷の準備中に起きる怪事件など、学園の至る所で奇妙な事件や謎が湧き上がる。謎があるとつい考えてしまう智也は、いつしか学園の名探偵に……!?

岸波 龍（きしなみ・りゅう）

1985年三重県生まれ。本屋「機械書房」店主。文筆家。
2023年東京・水道橋で本屋「機械書房」を開業。自主制作の小説、詩集を積極的に販売して話題となり、雑誌・ラジオ等で紹介される。
著作に絵本『夜にてマフラーを持っていく月が』（詩・多宇加世／絵・岸波龍、双子のライオン堂出版部）。文芸誌「随風」（志学社）に随筆を寄稿。

書店主の一途な読書愛から生まれた子供も大人も楽しめる推理小説。

著者の岸波龍は、東京・水道橋の雑居ビルの一室で本屋「機械書房」を営む。
大学在学中からミステリ小説の投稿を 10 年ほど続けるも、作家デビューには至らず小さな書店を開業した。文学フリマ等で知り合った作家の卵や既にデビューした作家たちによる、小部数の自主制作本（ZINE）を店頭に取り揃えると話題となった。
本を愛する仲間たちに囲まれながら再び筆をとり、読書好きの高校生が活躍する学園ミステリが、ここに誕生した……。

ご注文は 而立書房 まで
FAX 03-3292-8782

http://www.jiritsushobo.co.jp